



令和6年9月2日

園長通信

幸せな記憶

-2 学期からの変更点についてのお願い-

園長 安達 譲

yuzuru@hijiri.ed.jp

新学期スタート

今日から2学期がスタートしました。全員がそろって。笑い声や（ママと久しぶりにお別れした後の）泣き声が響き、いつもの園の姿が戻ってきました。各クラスでは子どもたちが写真を見せながら嬉しそうに先生たちに夏休み中の思い出を話してくれていました。

私も夏休みに長男、長女家族と合流して、4人の孫たちとプールに入ったりなど幸せな時間を過ごすことができました。そして今回とても嬉しく感じたのは自分の長男や長女がパパやママとして、孫たちと楽しそうには遊んでいる姿でした。勝手な想像かもしれませんが子ども時代の幸せな思い出が親になった時に自分の子と遊ぶ姿に現れているのかもしれないなあ、もしもそうだったとしたら本当に嬉しいなあと思います。この夏も酷暑で子どもとどこで何して遊ぼうか様々心を砕かれたかと思いますが、今日の園での楽しそうに思い出を語る様子を観ていると、子どもたちの心にきっと幸せな記憶として残っているように感じました。

また、夏期は園の教職員にとっては一番研修等を受けやすい時期で、学びの時期です。この夏も先生たちが対面でまたオンデマンドで研修に参加したり、近畿地区の研究大会や幼児教育研究機構の実践学会での発表をするなど（偉そうに聞こえるかもしれませんが）日本の幼児教育のフロントランナーの中の1園としてとして研鑽を積んできました。

近畿地区の研修会では内田伸子先生のご講演を拝聴しました。お聴きするのは初めてではないのですがお聴きするたびに新たな発見があり、自分たちの目指す方向性を確認させていただいているような気がします。私たちが外部の研修を受けるのも、園を開いて大学や他の園の先生方のご見学を受けるのも文科省などの国の調査・研究に協力するのも自園の中に引きこもるのではなく、常に社会の変化を踏まえて自分たちを客観的に振り返り、学び続けることが重要だと考えるからです。家庭におかれてもそうだと思いますが、幼児教育も子育ても「これが正解」というのは難しく、自分がしていることが子どもにどんな風に伝わり（記憶として残り）、その子が思春期を経て大人になった時にその考え方や行動に影響を与えるのかはとても気になることだと思います。

この夏に「犯罪心理学者が教えるこどもを呪う言葉・救う言葉（出口保行著、SB 新書）」という本を読んだのですが、著者の出口保行先生（東京未来大学副学長）は大学教員となられる前に法務省の心理職員として少年鑑別所、刑務所等で1万人を超える犯罪者の心理分析をされてきました。その中でどの事例にも大きく影響を与えていたのが家族の存在、特に養育態度が非行や犯罪の発生に大きく関わっていることが明らかになり、非行犯罪臨床から得た子育ての問題点を多くの人に伝えるためにとこの本を出版されました。詳細はここに書くことは難しいのですが、このような例が書かれていました。

例えば、「みんなと仲良くしなさい」というごく当たり前の一言が、非行につながったケースです。両親からいつも「みんなと仲良くしなさい」、「自分の主張をしてはならない」、「出しゃばるな」と強烈に言われてきた子が徐々に人との関わりを断つようになり孤立していきました。そんな時に親切に声をかけてくれたのが、万引きの常習犯の友達と打ち解けるうちに自分も万引きの常習者になっていきました。親は「よかれ」と思ってこう言っていたのですが、行

き過ぎてしまったことが、適切な自己主張能力や自己決定能力を低下させてしまい、何事についても人の顔色をみながら暮らす習慣が身についてしまい、友だちとの健全な交友関係すら築けなくなってしまいました。

もうひとつは、親が何でもしてあげたことが覚醒剤の使用につながってしまった事例です。両親にとっては長い不妊治療の末に誕生したこどもが生活の全てで、こども中心の生活を送っていました。こどものことを心配するあまりジャングルジムを家の中に設置して、外遊びをさせないようにしていました。受験で苦労しないように幼稚園から大学までエスカレーター式で進学できる学校に入学させました。両親はとにかく何でも手伝ってあげるスタンスで、こどもが主体的に判断して行動することは認めません。やがてやってもらうことが当たり前になり、面倒くさいことは全て親任せになりました。親のコネで就職したものの自分から何かにかかわろうとしないので社会生活を営むことができず、引きこもりから覚醒剤に手を出して逮捕されてしまいました。

2つの事例に共通するのはこどものことを思い保護することが行きすぎて、全てにおいてこどもが失敗しないように先回りして障害を取り除いていったことで、結果として本来は成長の過程で身につく「問題解決能力」が育たなかったことです。また、こどもも親に依存するだけでなく、親も子どもに依存されることに価値を見いだす「共依存」に陥ってしまったことです。これらは極端な例ですが子どもたちのためによかれと思ってしていることが行きすぎた結果的に子どもたちの成長の邪魔をしてしまうことになりかねません。

2学期は各クラスで子どもたち同士の関係が深まり、仲良く過ごす姿もあれば、けんかなどのトラブルも多く観られますが、それらを「子どもが困ることは無い方がいい」ではなく、子どもたちにとって「貴重な成長の機会」としていけたらと思います。保護者の皆様も子どもの姿を観てご心配なられることもあるかもしれませんが、「そのような時はご遠慮なく園にご相談いただけたらと存じます。

今学期も保護者の皆様にも様々な行事等で、ご協力をいただくことも多々あるかと存じますが、どうぞ1学期同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2学期からの変更についてのお願い

今年度園では文部科学省の委託調査として「働き方改革」に取り組んでいます。先日も関係する企業の方々によるアンケートやワークショップを行い、様々な改革に取り組んでいます。その中で、意義や意味を確認しないままにこれまで通りになっていたものをいくつか見直しました。創造的余白の時間を確保することにより幼児教育の専門家として質の向上に充てる時間を確保したいと思いますので、どうぞご理解と協力をお願いいたします。

① キッズリーの出欠確認 8時15分→8時までに変更いたします

出欠を時間までに入れておられない方がありますと、職員室から確認した後に各クラスの担任が個別の連絡を送ることとなり、数分間保育を他の職員に任せて離れなければならないという状況が発生することがあります。そのような事情から出欠を入れていただく時間を15分早めさせていただきます。

尚、今週の状況を観て、時間内の連絡を入れていただけないご家庭には個別のお願いあるいは（連絡が入れられないご事情もあるかと思っておりますので）ご相談の連絡を入れさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

② お便り帳の出欠席・身長・体重の欄（健康診断表）の記入についてキッズリーに移行します

現在、毎月末に園でお預かりして、手書きでおたより帳にしているものをキッズリーへの入力に移行いたします。育ちの記録としておたより帳に残したいとお考えの場合は各ご家庭で記入いただきますようお願いいたします。

年度途中の変更となりますが事情ご賢察の上、ご理解ご協力をお願いいたします。